

平成29年度「教育に関する大綱（第二編）」の評価について

1. 平成29年度大綱に掲げる指標の達成状況等

○指標の達成状況は達成（A）・概ね達成（B）が69%（56/81）（未評価を除くと81%（56/69））と、概ね順調に成果を上げることができた。

<達成できた主な指標>

- ・コミュニティ・スクールを導入している学校数（小中）
- ・身につけた知識・技能や経験を生活の中で活用できないか考える児童生徒の割合（中）
- ・「難しいことでも失敗を恐れなくて挑戦している」児童生徒の増加（中高）
- ・学校防災マニュアルの見直しを行った学校数（小中高特支）
- ・学級みんなで協力してやりとげうれしかったことがある児童生徒の割合（中）
- ・文化・芸術、スポーツ等の分野で、全国で活躍する児童生徒数（全国3位以上）

2. 主な課題

<学力・学びの質（全国学力・学習状況調査等）>

○算数・数学の基礎的・基本的事項の習得（主として知識に関する問題（A問題））

- ・平均正答率（小6：算A、中3：数Aで全国以下）
- ・最上位層の割合（小6：算A、中3：数Aで全国以下）
- ・最下位層の割合（小6：算A、中3：数Aで全国以上）

○中3時と小6時の各教科の最上位層・最下位層の割合

- ・最上位層の割合（中3：小6時より減少）
- ・最下位層の割合（中3：小6時より増加）

○わかりやすい授業や勉強することの充実感

- ・勉強の充実感を感じる生徒（高2で目標値以下：H29=63.8%、目標値：75%）

⇒全国学力・学習状況調査の結果から見えてきた地域毎の課題の解決に向けた取組を進めている。

【東部地区】…家庭学習の質の向上

- ◆「家庭学習の質の向上」に係る研修会開催、大学が開催する「学習意欲と学力向上」などの講義参加、実践校における「家庭教育推進プラン」に沿った実践研究

【中部地区】…活用力向上につながる授業改善

- ◆全国学力・学習状況調査に出題された過去5年間の問題をもとに県教委が独自に作成した「B-PLAN活用問題集」の活用

※「B-PLAN活用問題集」とは、単元ごとにその単元のねらいに沿った全国学力・学習状況調査の問題を配列した問題集

【西部地区】…若手教員の授業力向上

- ◆若手職員の先進校派遣（派遣者は主体的に派遣校を設定）、授業改善に向けたアドバイザー派遣

⇒「とりっこドリル」の活用や授業改善などにも引き続き取り組んでいく。

○教員・生徒の英語力

- ・英検準1級以上等の英語力を有する英語担当教員（中：H29=28.2%、目標値：65%）
（高：H29=83.3%、目標値：85%）
- ・英検準2級程度以上の英語力を有する生徒（高：H29=36.5%、目標値：50%）

⇒「教員の英語力向上のためのセミナー及び外部試験活用事業」を活用し、資格未取得教員の受講・受験を義務化する。

⇒積極的に「CAN-DOリスト」を活用し、生徒のスピーチ力などの学習目標達成度を生徒・学校相互に共有・見える化し、目標を意識した学習指導を行う。

⇒英語教育重点校やエキスパート教員の授業公開など効果的な指導実践を普及する。

⇒高校英語教員の「話す」「書く」に関する指導力や英語力を高める「英語教師塾」の開催など指導力の向上を図る。

⇒グローバル・リーダーズ・キャンパス(※)に参加した高校生が、高校模擬国連国際大会に日本代表として参加するなど、引き続きグローバルな舞台で活躍を目指す生徒を支援する。

※県内高校生を対象に、県教委とスタンフォード大学が連携し、グローバルな課題について専任講師から講義を受け、英語で議論するという遠隔講座。

○地域や社会で起こっている問題等への関心や地域行事への参加

- ・地域や社会で起こっている問題等に関心のある児童生徒（小6、中3、高2ともに目標値以下）
- ・地域の行事に参加している児童生徒（小6、中3、高2ともに目標値以下）

⇒すべての小中学校において、「郷土を愛する心情及び態度の育成」に取り組んでいることから、冊子「鳥取県学校教育のめざすもの」の活用や、地域の人材や歴史、自然等について学ぶふるさと教育を充実する。

⇒ふるさとに学ぶ地域学習（まち未来科：南部町）といった土曜授業等を実施する市町村を支援する。

⇒県立高校において地域連携重点校を設定し、地域に根ざした探求学習（青谷学：青谷高校）等を実施するほか、「地域創造」をテーマとしたハイスクールサミット（鳥取中央育英高校）等の充実を図る。

⇒日本財団と鳥取県の共同による、高校生が自ら考え地域と関わり合いながら地域の課題について考える「ソーシャルイノベーションハイスクール」に取り組む。

<体力・運動能力・スポーツ>

- ・体力・運動能力調査における上位層の割合（小5、中2ともに目標値以下）
- ・体力・運動能力調査における長座体前屈（小5、中2ともに目標値(全国平均)以下）
- ・体育の授業を除く1日の運動時間が1時間以上の児童の割合（小5：目標値以下）

⇒柔軟性の向上について、新規に「ワンミニッツエクササイズ」を開発し、モデル校の三朝西小学校では数値がほぼ全員改善するなど、効果が出ている。今後、実践校の日南小学校をはじめ、全県に普及させる。

⇒体育及び保健体育学習等への指導助言、学校体育講習会や教育課程研究集会への体育主任以外の教員の参加を促進することで、教員の指導力向上や授業の質の向上を図る。

⇒「遊びの王様ランキング」の活用を促すこと等を通じて子どもの運動習慣づくり、体力向上等につなげる。